

入学試験問題の講評 小論文

●出題のねらいと傾向

文学部では、入学後に必要な読むこと・書くことの基礎力があるか、論理的な思考ができるか、問いかけに対して根拠を示しながら自分の考えを投げ返す応答能力があるか、そして難しい問題からも逃げずに積極的に取り組んで自分なりの答えを出そうと努力する姿勢と思考の持続力があるかどうかを確認するために、小論文を出題しています。

①では、佐藤卓己『輿論と世論』（新潮選書、2008年）を素材として、文字メディアである新聞と映像メディアであるテレビとの差異が、理性的「輿論」と気分的「世論」との差異とどのように関連しているかについて、1964年東京オリンピックにかんする輿論・世論の変動を主題としながら考える課題文を出題しました。

テレビという媒体をとおしてのオリンピック視聴経験を「直接的な」参加経験」と述べる著者の見解を、このカギカッコつきの「直接的な」の含意をひとつのポイントとして、どのように理解し、またそれをふまえたうえで自身の考えを答案にどのように展開できるかを、問いました。

②では、子どもの貧困とそれへの社会的な対応のひとつとして注目されている「子ども食堂」の現状と課題について、新聞記事の文章を図表と組み合わせる問題を出題しました。

課題文中に自身にとって身近な話題を見つけたからといって直感的に思いつくことをただ記すのではなく、課題テキストを正確に読み取り、資料上の情報を客観的に把握することができるかどうか、そしてそのうえで論述を記せるかどうかの力が問われました。

●解答内容について

平均点は5.5割ほどでした。最高点は92点でした。一定水準以上の答案を1問4で書けたかが、合格ラインに届くかどうかの違いをなすひとつの要因であったように思います。

①問1、問2は漢字の出題でした。訓読みの書きとりも日ごろから学習しておきましょう。

問3では、輿論と世論との中身の違いを理解することはまず前提でした。くわえて、テレビの普及という変化が、輿論から世論へと日本社会の重心を動かす結果を生じさせたという点を正確に読み取ることが必要でした。

輿論と世論との区別にかんして課題文は平易に提示していたと思いますが、文中の数値だけにとらわれて輿論＝理性と世論＝感情との基本的な区別すらはっきりしない答案が目立ちました。

問4では、現地観戦よりもテレビ視聴のほうが「直接的」であるという著者の見解の理解、およびそれに対する自身の考えが問われました。具体的な事例を挙げての説得力ある答案が見られました。他方で、

1964年当時のメディア状況と、2020年現在の状況との区別ができていない内容の答案が一定数見られました。また、自身の経験からの例を論述のなかで挙げる際に、詳しい具体性と分析を伴わない、大まかな体験談にとどまる答案がやや多かったように思われます。

なお各設問で3行（60字）以上空白がある答案については大幅な減点としています。

②については、貧困率の年次推移などの図表の読み取りは適切である答案が多かったです。しかしながら、中長期的に日本社会において継続している母子家庭をとりまく困難という問題と、新型コロナウイルス対応によるさらなる影響という今年に入ってから新たな要因との区別ができていない答案が、多々見受けられました。合格には文章読解の正確さと速さが求められます。

●アドバイス

1. 「読む」力をとみなわない「書く」力はありません。なんといっても、文章を「読む」力を身につけましょう。したがって、現代文の学習は小論文の学習にとってつねに基礎となるものです。記述式設問のある現代文の問題集などにしっかりと取り組むことは、小論文対策のための最も基本的かつ有効な学習方法のひとつです。

2. そのうえで、自身の論を記すという「書く」ことのためには、「読む」ことで得てきた語彙や論理を能動的にみずから書き記すことができるようになる必要があります。「読む」訓練の際にも、“この語彙や論理は小論文で「書く」ときに使えそうだ”といった、能動的に「書く」意識を持ちながら「読む」姿勢を、構築していくことが望ましいでしょう。

3. 短期的な時事的話題や表面的関心事に左右されて、直感的に思いつきで答案を記すのではなく、まずは課題文を客観的に読み解くこと、そして物事を瞬間的・短期的な見かけだけではなく中長期的な視野でとらえ直す姿勢をもつこと（これは日本史・世界史の学習にも通じます）が、小論文に取り組むためには重要です。

4. 一文が長くなりがちな人は、句点や接続詞の使い方を見直し、主語の省略などによって読み手に伝わりにくい文章になっていないか留意する習慣をつけましょう。一文が短くなりがちな人は、語彙の獲得に努めるとともに、理由・譲歩・時などの従属節をもちいて文章内容の明確化・補足ができるように心がけていくとよいでしょう。

配点(100)

①	問1	8点(2点×4)	問2	2点(1点×2)	問3	20点	問4	30点
②		40点						